

和泉葛城山の昆虫（2023-2024 年調査）

岩崎 拓

CB 大阪 : 〒590-0143 大阪府堺市南区新檜尾台 3 丁 1-3-504

Insects around the top of Mt. Izumikatsuragi, recorded in 2023-2024

Taku IWASAKI

CB-Osaka : 3-1-3-504 Shinhinoodai, Minami, Sakai, Osaka 590-0143, Japan

Abstract : Successive surveys were conducted to describe the insect fauna and its change around the top of Mt. Izumikatsuragi (lat. 34.347989N, long. 135.434352E, alt. 858m) from 2008, and the results obtained in 2023-2024 were reported in this paper. The survey area located in Kongo Ikoma Kisen Quasi-National Park (Osaka and Wakayama Prefectures), and included forests of the Japanese beech, *Fagus crenata*. Insects observed or recognized by singing were recorded in a certain route of ca. 3-hour daytime walk, once a month from April to December in 2009-2024, after a preliminary survey in 2008. Over 200 species, including residents only in the forests were identified in 2023-2024. Numbers of the threatened species selected in the Osaka Prefecture Red List were 11 and 12, found in 2023 and 2024, respectively. Out of these red list species, the acridid *Mongolotettix japonicus*, the cicadas *Yezoterpnosia vacua* and *Lyristes japonicus* were found in all the years so far, whereas no species was found for the first time in the last two years. Mountain-dwelling species as well as those threatened ones, and the number of species in each order or subgroup were summarized below. For example, 28 species of butterflies were observed in both 2023 and 2024, close to the average (26.6 species) for 2009-2024. Populations of some mountain-dwelling species and threatened ones tended to be decreasing, and some plain-dwelling species were beginning to be found. In order to assess such trends to continue, in addition to the first stated objectives, further surveys should be conducted.

Key words : insect, fauna, threatened species, Mt.Izumikatsuragi

はじめに

国の天然記念物に指定されたブナ林を含む和泉葛城山の山頂付近の昆虫相を明らかにするため、2008 年に予備的な調査を開始し、2009 年以降は 4 月から 12 月まで毎月 1 回の割合で定期的な調査を行ってきた（岩崎、2025 など）。2023-2024 年も引き続き、昆虫相全般を対象にした調査を行ったので、ここに報告する。

調査方法

2023 年と 2024 年の 4 月から 12 月にかけて、毎月 1 回、雨でない日を選んで調査を行った。和泉葛城山の山頂付近（標高 820～858m：メッシュコード 51354314-15：図 1、2）を約 3 時間かけて歩き、目視あるいは鳴き声等によって種の確認を行った。調査エリアは金剛生駒紀泉国定公園内にあり、調査ルートは大阪府貝塚市と岸和田市、および和歌山県紀の川市にまたがる。

ただし、以下の期間においては、木道やデッキの改修工事等により閉鎖区間があり、当該箇所を避けて調査を行った（2023 年 4 月～5 月、12 月：周回路デッキあるいは木道工事による周回路の閉鎖；2024 年 4 月～5 月：トイレ前広場と和歌山県側の展望デッキ周辺での植栽の植え替え；2024 年 11 月以降：登山道 A コースの閉鎖）。

目視で同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、同定が困難な種や貝塚市立自然遊学館（以下、自然遊学館）に標本のない種等を採集し、自然遊学館の所蔵標本とした。

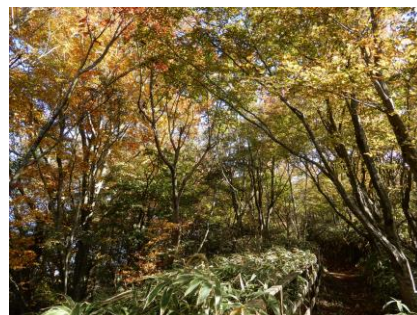


図 1. 山頂付近の登山道 2023. 11. 4

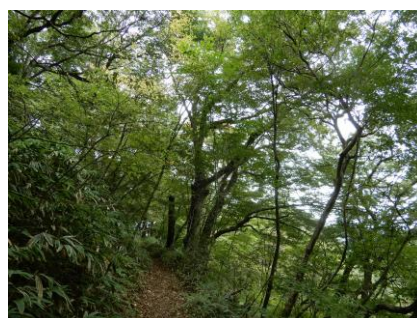


図 2. 山頂付近の登山道 2024. 10. 15

結果および考察

2023 年と 2024 年の調査で確認された昆虫を、大阪府レッドリスト種、貝塚市内での分布が和泉葛城山の山頂付近にほぼ限られる山地性の種、自然遊学館に標本がなかった種や、平地にも生息し近年増加傾向にある種などに関して、それぞれ目ごとに結果を示した。また、必要に応じて、2008 年以降の調査結果、および自然遊学館がこれまでに収集・所蔵してきた貝塚市産昆虫標本のデータとの比較を行った。各月の調査日に関しては表 1～8（本文中の表記では、年月のみを使用）、大阪府レッドリストのランクに関しては表 9 を参照していただきたい。

トンボ目

2 年間に確認した大阪府レッドリスト種は、オツネントンボ、オオルリボシヤンマ、ミヤマアカネ、アキアカネの 4 種であった。オツネントンボは 2023 年 10 月に 1♂が確認された（図 3）。オオルリボシヤンマは両年において場所で確認された。平面の防草シートを水面として認識しているのかもしれない。ミヤマアカネは 2015 年から 2023 年まで 9 年連続で 8 月に確認されてきたが、2024 年の 8 月の調査日には確認なしで 9 月に 2♂3♀が確認された（ただし、別の目的で調査日以外の 8 月 26 日に当地に行った際に 1♂1♀が確認された）。



図 3. オツネントンボ
2023. 10. 16

2015 年から 2021 年までは 8 月のみの確認だったのが、2022 年には 10 月に 1 ♀が確認されたこともあり、山頂付近に滞留する期間が長くなっている可能性がある。アキアカネは 2023 年 10 月に 1 ♀を確認された。

ウスバキトンボの群飛は、2023 年 8 月に 30 個体以上、2024 年 9 月に 200 個体以上が確認された。その他、普通種として書き残しておくべきことは、2024 年 8 月にシオカラトンボとオオシオカラトンボをそれぞれ 20 個体以上と 10 個体以上確認したことであり、2008 年の調査開始以来、初めてのことであった。

バッタ目

大阪府レッドリスト種として、ナキイナゴとヒトコブササキリモドキを確認した（表 1、2；表 9 参照）。ナキイナゴは 2008 年の調査開始以来 16 年連続の確認となった。ただし、これまでの報告において「個体群が安定的な状態にある」と記述してきたが、この 2 年間の結果は、確認された調査日と個体数が少なく、そう言い切れる状態ではなくなった可能性がある。ヒトコブササキリモドキは 2020 年にブランクがあり、かつ 2021 年と 2022 年も個体数が少なく心配されたが、2024 年 7 月の調査には 3♂2♀が確認された（図 4）。



図 4. ヒトコブササキリモドキ
2024. 7. 8

2022 年に確認がなかったツユムシ科では、ホソクビツユムシが両年とも 3 調査日で確認された。明瞭な減少傾向を示すアシグロツユムシに関しては、今回も 2023 年 7 月に幼虫が 1 個体確認されただけであった。

表 1. 和泉葛城山山頂付近において 2023 年 4 月から 12 月にかけて確認されたバッタ目

「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。

科	種	学名	調査日	4月 18日	5月 16日	6月 13日	7月 14日	8月 5日	9月 7日	10月 16日	11月 4日	12月 14日
カマドウマ科	チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>						○				
コロギス科	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>						○				
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>			△							
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>			△	○						
ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>				○	○					
	ヒメツユムシ	<i>Leptotetrura albicornis</i>					△					
ツユムシ科	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>				○	○	○				
	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>				△						
コオロギ科	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>						○				
	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>						○			○	
	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>						○	○	○		
	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>						○				
ヒバリモドキ科	クサヒバリ	<i>Sivistella bifasciata</i>						○	○	○		
	マダラスズ	<i>Pteronemobius nigrofasciatus</i>				○	○	○	○	○	○	○
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>						○				
カネタタキ科	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>						○				
ヒシバタ科	モリシバタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>			○			○				
	ヒシバタ属	<i>Tetrix sp.</i>										△
オンババタ科	アカハネオンババタ	<i>Atractomorpha sinensis</i>				○						
バタ科	ヤマトフキバタ	<i>Parapodisma yamato</i>		△	△	△	○	○	○	○		
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>			△○							
	ツマグロバタ	<i>Stethophyma magister</i>			△	△○	○					
	ヒロバネヒナバタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>							△			

表2. 和泉葛城山山頂付近において2024年4月から12月にかけて確認されたバッタ目
「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。

科	種	学名	調査日	4月 19日	5月 10日	6月 13日	7月 8日	8月 8日	9月 9日	10月 15日	11月 5日	12月 3日
カマドウマ科	クチキウマ属	<i>Anoplophilus</i> sp.						○				
	ハヤシウマ	<i>Diestrammena itodo</i>								△	○	
コロギス科	コロギス	<i>Prosopogryllacris japonica</i>						△				
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>		△			○					
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>				△						
ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>					○	○				
	ヒメツユムシ	<i>Leptotetrura albicornis</i>						△	死体			
ツユムシ科	ヤマクダマキモドキ	<i>Holochlora longifissa</i>							○			
	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>			△		○	○				
コオロギ科	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>								○		
	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>								○		
	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>							○	○		
	オカメコオロギ属	<i>Loxoblemmus</i> sp.									○	
ヒバリモドキ科	クサヒバリ	<i>Sivistella bifasciata</i>							○	○	○	
	マダラスズ	<i>Pteronemobius nigrofasciatus</i>					○	○	○	○		
カネタタキ科	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>							○			
ヒシバッタ科	モリヒシバッタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>		○		○						
	ヒシバッタ属	<i>Tetrix</i> sp.						○				
バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>		△	△	△	○	○	○	○		
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>			△○	○						
	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>									○	
	コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i>									○	
	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>							○			
	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>			△	○	○	○				
	ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>							○	○		

この2年間で特筆すべきことは、アカハネオンブバッタが2023年7月に初めて確認されたことである（図5）。エンマコオロギの鳴き声も2023年9月に1個体を初めて聞き、2024年10月にも1個体の鳴き声が確認された。これから平地の普通種の確認が増えるのかもしれないが、一時は林縁だけではなくブナ林内からも聞こえたアオマツムシの鳴き声は2021年から減少し、この2年間はまったく聞くことがなかった。このように個々の種の増減は傾向が継続しないこともあり（鳴く虫の場合は調査日が晴れか曇りかによって影響を受ける可能性もある）、モニタリングを続けていくしかない。



図5. アカハネオンブバッタ

2023. 7. 14

貝塚市内で初めて確認されたのは、2013年6月である（近木川河口付近）

カマキリ目など

オオカマキリに関しては、増加傾向にあるというよりも、前回の報告書で記述したように、2017年を境にフェーズが変わったと判断する方が正しいのかもしれない。2009年から2016年までの8年間の平均個体数（幼虫+成虫）が3.5であったのに対して、2017年から2024年までの8年間の平均個体数は11.0であった（2023年は7個体、2024年は9個体：2008年は年4回の予備調査だったので、平均値の計算から省いた）。また、2022年11月に自身の調査では初めて確認されたヒメ



図6. ヒメカマキリの幼虫

2023. 8. 5

カマキリは、2023 年 8 月と 2024 年 8 月に幼虫が確認された（図 6）。

ナナフシ目ではエダナナフシの幼虫が 2023 年と 2024 年の 5 月と 6 月に確認され、ハサミムシ目ではコブハサミムシが両年の 6 月に確認された。

カメムシ目

セミ科は、2023 年に 7 種、2024 年に 6 種を確認された（表 3、4）。大阪府レッドリスト種であるエゾゼミとハルゼミは、2008 年の調査開始以降、毎年確認されている。ハルゼミの鳴き声での確認は、2023 年 5 月に約 30 個体、6 月に 8 個体、2024 年は 5 月に 7 個体と 6 月に 8 個体であった。その他、2023 年 4 月に羽化殻 1 個体を採集し（図 7）、自然遊学館の所蔵標本とした。



図 7. ハルゼミの羽化殻

2023. 4. 18

2023 年 8 月に 1 個体の鳴き声を聞いたクマゼミは 2016 年以來 6 年ぶりの記録となったが、別の目的で行った 2023 年 7 月 28 日にはブナ林内を含めて約 10 個体の鳴き声を聞いた。その日は午前 9 時台に到着し、クマゼミの鳴き声を聞き、その後 11 時台にかけてエゾゼミの鳴き声と入れ替わっていった。アブラゼミは 2012 年から 2019 年まで連続して確認され、その後の 3 年間記録がなかったが、2024 年 8 月に鳴き声が確認された。なお、2023 年 8 月と 2024 年 9 月にミンミンゼミにしてはやや濁った「ダミ声」の同定できない鳴き声を聞いている（表 3 と表 4 には掲載していない）。

表3. 和泉葛城山山頂付近において2023年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「○」印は、鳴き声・目視での確認を示す。

種	学名	調査日	4月 18日	5月 16日	6月 13日	7月 14日	8月 5日	9月 7日	10月 16日	11月 4日	12月 14日
エゾゼミ	<i>Lyristes japonicus</i>					○	○	○			
クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>						○				
ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>						○	○			
ニイニゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>					○	○				
ハルゼミ	<i>Yezoterpnosia vacua</i>			○	○						
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>						○	○			
ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>						○				

表4. 和泉葛城山山頂付近において2024年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「○」印は、鳴き声・目視での確認を示す。

種	学名	調査日	4月 19日	5月 10日	6月 13日	7月 8日	8月 8日	9月 9日	10月 15日	11月 5日	12月 3日
エゾゼミ	<i>Lyristes japonicus</i>						○	○			
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						○				
ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>						○				
ニイニゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>						○				
ハルゼミ	<i>Yezoterpnosia vacua</i>			○	○						
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>						○	○			

その他のヨコバイ亜目としては、テングアワフキ（図 8）を 2024 年 6 月に木柵上で 2 個体が確認されたこと、およびカタビロクサビウンカが 2024 年 7 月に確認されたことを書き留めておく。近木川上流域の本谷で確認されてきたカタビロクサビウンカが 2008 年以降の山頂付近の調査で初めての記録となるのは意外なことである。



図 8. テングアワフキ
2024. 6. 13

カメムシ亜目の大阪府レッドリスト種は、2023 年 4 月に駐車場の水たまりで確認されたヤスマツアメンボ 1 種だけであった。これは同所で 2016 年以降の確認である。

2023 年と 2024 年に確認した主なカメムシ亜科のリストを、それぞれ表 5 と表 6 に示した。前回の報告書でも書いたことだが、これまで山頂付近での普通種と考えていたツマジロカメムシやトゲカメムシでさえ、確認するのに苦労するようになった感がある。両種とも表 5 と表 6 に示した「○」印が、それぞれ成虫 1 個体のみの確認である。

表 5. 和泉葛城山山頂付近において2023年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。

科	種	学名	調査日	4月 18日	5月 16日	6月 13日	7月 14日	8月 5日	9月 7日	10月 16日	11月 4日	12月 14日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>			○					○	○	
	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>								△○		
	モンキツノカメムシ	<i>Sastragala scutellata</i>									○	
	ヒメハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma forficula</i>								○		
	ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i>									○	
カメムシ科	シラホシカメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i>								○		
	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha picus</i>			○					△	○	
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>					○	○	○			
	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>		○						△○	○	
	クチブトカメムシ	<i>Picromerus lewisi</i>				△						

表 6. 和泉葛城山山頂付近において2024年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。

科	種	学名	調査日	4月 19日	5月 10日	6月 13日	7月 8日	8月 8日	9月 9日	10月 15日	11月 5日	12月 3日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>		○	○		○	○	○			
	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>		○	○		○	○		○		
	モンキツノカメムシ	<i>Sastragala scutellata</i>			○							
	ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i>			○							
	アオモンツノカメムシ	<i>Elasmotethus nubilus</i>				○						
ノコギリカメムシ科	ノコギリカメムシ	<i>Megymenum gracilicorne</i>					○					
カメムシ科	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>						○		死体		
	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha picus</i>		△	△	△○	○		○	△		
	シロヘリカメムシ	<i>Aenaria lewisi</i>			○							
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>							○			
	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>			○	○	○	○	○	死体		
ツマジロカメムシ科	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>		○								○
	アカスジキンカメムシ	<i>Poecilocoris lewisi</i>								△		

山地性のカメムシ科として注目してきたトホシカメムシは、2020 年まではほぼ毎年確認されていたが、この 4 年は確認されていない。エゾアオカメムシは、2018 年が最後の確認年となっている。

ただし、2018 年以來確認されていなかったツノアオカメムシは、2024 年 8 月に 2 個体、および同年 10 月に死体 1 個体が確認された。

2023 年 11 月に北米原産の外来種であるマツヘリカメムシがトイレ前広場で 1 個体確認され、(図 9)、2024 年 12 月にも同所で 1 個体が確認された。バッタ目の箇所ですべてアカハネオンブバッタと同じく、これからの動向が注目される種である。



図 9. マツヘリカメムシ
2023. 11. 4

チャバネアオカメムシは、以前は毎年見られる種ではなく、確認された年でもせいぜい 1 個体であったが、2017 年以降は 7 年連続で確認されている (年間 3~5 個体)。2021 年 11 月に 4 個体が確認され調査速報に「増加傾向にある」と書いたが(岩崎、2025)、2024 年は 5 月から 9 月にかけて 36 個体が確認された。特に 19 個体が記録された 2024 年 7 月の調査では、そのうちの 17 個体がブナ林内での確認であった (2024 年全体では 36 個体中 23 個体がブナ林内)。

コウチュウ目

大阪府レッドリスト種としては、セダカテントウダマシ (図 10) が 2023 年 6 月、7 月、9 月、および 2024 年 5 月、6 月、9 月に確認されたほか、イワキセダカコブヤハズカミキリが 2024 年 6 月、トラフコメツキが 2024 年 5 月に確認された。



図 10. セダカテントウダマシ
2023. 6. 13

クワガタムシ科では、ミヤマクワガタが 2024 年 7 月、アカアシクワガタが 2023 年 8 月 (死体) と 2024 年 8 月に確認された (その他、スジクワガタとコクワガタ)。アカアシクワガタは佐々木仁氏に教えていただいたポイントでの確認であり、これまで注目種として掲載してきた記録にバイアスが掛かることに注意していただきたい (表 10 参照)。

テントウムシ科ではカメノコテントウが 2024 年 5 月に確認され、2017 年以來 7 年ぶりの記録となった。この調査日にはナナホシテントウが多く確認され、ブナ林内で 6 個体を数えたのは 2008 年の調査開始以來記憶がないことである (ブナ林の外では 10 個体以上を確認)。



図 11. ツシムムナクボカミキリ
2023. 7. 14

カミキリムシ科に関しては、この 2 年間で先に述べたイワキセダカコブヤハズカミキリ以外に 12 種が確認され、そのうち 2021-2022 年にも確認されたものがシロトラカミキリ (2023 年 5 月) とホソトラカミキリ (2023 年 7 月、8 月) の 2 種、および 2021-2022 年には確認されていないとしてはニセシラホシカミキリ (2023 年 6 月)、ツシムムナクボカミキリ (2023 年 7 月、図 11)、ヨツスジハナカミキリ (2023 年

8 月)、ヒメルリハナカミキリ (2024 年 5 月)、フタオビヒメハナカミキリ (2024 年 5 月)、アトモンサビカミキリ (2024 年 5 月、6 月)、ツヤケシハナカミキリ (2024 年 6 月)、ニセリンゴカミキリ (2024 年 7 月)、ウスバカミキリ (2024 年 8 月)、ゴマダラカミキリ (2024 年 8 月) の 10 種であった。なお、2024 年 5 月の記録は調査ルートの一部において佐々木仁氏と同行させてもらった際の記録であり、ここにあげた 13 種はいずれも同氏の『和泉葛城山山頂付近のカミキリムシ (令和 6 年版)』(佐々木、2024) にリストアップされている種である。

自然遊学館に標本がないか、あるいは少ない種としては、カタモンミナミボタル (2023 年 7 月)、カシワツツハムシ (2023 年 7 月)、マダラメカクシゾウムシ (2023 年 8 月)、エゴシギゾウムシ (2024 年 5 月、図 12) の確認があげられる。



図 12. エゴシギゾウムシ
2024. 5. 10

ハエ目

2023 年 7 月に確認されたシロフアブ (図 13) は、自然遊学館に標本がない種であった。ハナアブ科では、オオヒゲナガハナアブ (2023 年 9 月) とシロスジベッコウハナアブ (2023 年 9 月、10 月) が確認する頻度が比較的少ない種と言える。ムシヒキアブ科に関しては、両年の 5 月に確認されたオオイシアブ、2024 年 7 月に確認されたヒメキンイシアブ、2023 年 5 月、6 月および 2024 年 8 月に確認されたコムライシアブのほか、2024 年 8 月に確認されたアシナガムシヒキが 4 個体されたことが印象に残った。



図 13. シロフアブ
2023. 7. 14

チョウ目

年 9 回の調査を開始した 2009 年以降の 16 年間に、チョウ類の確認種数の平均値は 26.6 種であり (最少は 2010 年の 22 種、最多は 2016 年と 2019 年の 31 種)、2023 年と 2024 年の 28 種は平均的な種数と言える (表 7、8)。両年における大阪府レッドリスト種の確認は、2024 年 5 月のアオバセセリと同年 6 月のミスジチョウの 2 種であった (表 8 ; 表 9 参照)。アオバセセリはトイレ前広場で最低 3 個体が確認され (図 14)、ミスジチョウは展望台への階段における 1 個体の確認である。



図 14. アオバセセリ
2024. 5. 10

ジャコウアゲハは 2023 年 5 月に 4 個体が確認され、同年 9 月には幼虫 1 個体が確認されたが、2024 年には確認されなかった。自身の調査では 2018 年に初めて確認されたイシガケチョウは 2019 年以降確認されていなかったが、2024 年 7 月に 5 年ぶりの確

表7. 和泉葛城山山頂付近において2023年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

「○」印は成虫での確認を示す。

科	種	学名	調査日	4月 18日	5月 16日	6月 13日	7月 14日	8月 5日	9月 7日	10月 16日	11月 4日	12月 14日
アゲハチョウ科	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>						○				
	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>						○	○			
	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous alcinous</i>			○				△			
シロチョウ科	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>			○	○	○	○	○			
	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>				○						
	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina mandarina</i>					○	○	○		○	
	モンキチョウ	<i>Colias erate</i>				○						
	コシヤノメ	<i>Mycalesis francisca</i>			○							
タテハチョウ科	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>				○		○	○			
	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>					○		○			
	コミスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>			○			○				
	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>		○								
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>			○						○	○
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>									○	
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>		○								
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>				○		○				
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>					○	○	○			
	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>							○		○	
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>		○		○	○			○	○	
シジミチョウ科	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>								○		
	トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>					○					
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>					○			○	○	
	ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>								○	○	
	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>			○							
	ゴイシシジミ	<i>Taraka hamada hamada</i>						○				
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas</i>					○					
セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>			○	○			○			
	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus flavus</i>						○	○			

表8. 和泉葛城山山頂付近において2024年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

「○」印は成虫での確認を示す。

科	種	学名	調査日	4月 19日	5月 10日	6月 13日	7月 8日	8月 8日	9月 9日	10月 15日	11月 5日	12月 3日
アゲハチョウ科	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>							○			
	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>							○			
	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>				○		○				
シロチョウ科	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>				○	○	○	○	○		
	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina mandarina</i>				○		○	○			
タテハチョウ科	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>				○		○	○			
	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>							○			
	コミスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>			○	○			○			
	ミスジチョウ	<i>Neptis philyra</i>			○							
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>										○
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>				○						
	イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas</i>					○					
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>				○			○			
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>				○	○					
	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>				○				○		
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>		○	○	○	○					
シジミチョウ科	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>										○
	ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>				○						
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>							○	○		○
	ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>				○			○			
	ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>								○		
	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>						○				
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas</i>						○	○			
セセリチョウ科	アオバセセリ	<i>Choaspes benjaminii</i>			○							
	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>						○	○			
	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>							○			
	チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>								○		
	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus flavus</i>					○	○				

認となった。注目種のアサギマダラは、2023 年には秋、2024 年には春と秋に確認された。ただし、11 月に確認されたのは 2023 年が初めてであった。

これまでの報告書に示した通り、テングチョウの群飛は 6 月に見られることが多く、特にトイレ前広場で 2023 年は約 30 個体、2024 年は約 20 個体が集合していたが、2020 年や 2021 年の 300 個体以上から比べると小規模になっていた。これはムラサキナギナタガヤの繁茂で地面の露出が減ってしまったことによるのかもしれない。

その他、シジミチョウ科に関して、トラフシジミが 2023 年 7 月に確認され、これは 2012 年以来 11 年ぶりの確認となった。また、2023 年 8 月に確認されたゴイシシジミ（図 15）は、自身の調査では初めての確認となった。その調査日には 2 個体が、さらに同年 7 月の調査日以外の日に当地を訪れた際には 5 個体以上が確認され、2023 年は発生数が多かった可能性がある（カメムシ目の項のクマゼミの箇所を参照）。

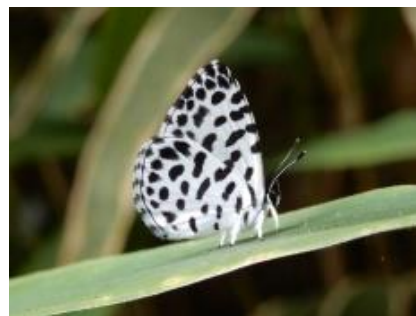


図 15. ゴイシシジミ
2023. 8. 5

ガ類の大阪府レッドリスト種では、ブナアオシャチホコが 2023 年 7 月に成虫で、2024 年 7 月には幼虫でそれぞれ 1 個体が確認された。自然遊学館に標本が所蔵されていないか、あるいは少ない種としては、ニセオレクギエダシャク（2023 年 6 月、図 16）、スジエグリシャチホコ幼虫（2023 年 6 月）、ネグロフトメイガ（2023 年 7 月、図 17）、ヒロバツバメアオシャク（2023 年 7 月）、ナナスジナミシャク（2023 年 11 月）、ヒメトラガ幼虫（2024 年 7 月、図 18）などがあげられる。



図 16. ニセオレクギエダシャク
2023. 6. 13



図 17. ネグロフトメイガ
2023. 7. 14



図 18. ヒメトラガ幼虫
2024. 7. 8

ハチ目

2023 年 6 月に確認されたクロムネハバチ（図 19）は、自身の山頂の調査では初めての確認となった。ただし、自然遊学館には貝塚市蕎原東手川において 2007 年 5 月 15 日に採集された標本が所蔵されている。確認例が少ない種としては、2024 年 9 月に確認されたフタホシアリバチがあげられる。

スズメバチ科に関しては、キイロスズメバチが2023年には5調査日において、2024年には3調査日に確認され、山頂で遭遇しやすい種と言え、2023年にはその他、オオスズメバチ、セグロアシナガバチ、キアシナガバチが確認された。また、2024年には11月にホソアシナガバチの巣、12月にクロスズメバチが確認された（図20）。2008年の調査開始以来、シダクロスズメバチが確認されたことはあったが（表10参照）、クロスズメバチの確認は初めてである。ただし、自然遊学館には1993年7月6日に橋本夏次氏によって当地で採集された標本が所蔵されている。

その他のグループ

チャタテムシ目はスジチャタテ以外にウスベニチャタテの幼虫が2024年10月に確認された（羽化させて種を確認）。シリアゲムシ目に関しては、多産するヤマトシリアゲのほか、ホソマダラシリアゲが2024年の5月と6月に確認された。

大阪府レッドリスト種など

2008年の調査開始以降に確認された大阪府レッドリスト種を表9に示した。2023-2024年の調査で新たに追加された種はなかった。毎年確認されている種としては、絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴ（図21）、準絶滅危惧のハルゼミとエゾゼミがあげられる。次いで、ミヤマアカネ、ヒトコブササキリモドキ、セダカテントウダマシが確認されやすい種と言える。

その他、山地性の種や、貝塚市内でこれまでの記録が和泉葛城山の山頂付近に限られるという種、あるいは2014年の大阪府レッドリストの改訂においてランク外とされた種、和歌山県のレッドリスト種などを注目種とし、それらの確認年を表10に示した。

単発的な確認に留まっている種は別にして、エゾツユムシ、エゾハサミムシ、エゾアオカメムシ、ミヤマカメムシ、シロホシテントウなど、以前は時々確認されていたのに近年は確認されていない種の動向が気になるところである。また、これまで述べてきたように、アオマツムシ、エンマコオロギ、アカハネオンブバッタ、クマゼミ、チャバネアオカメムシなどの平地の普通種の増減にも注意を払いながら調査を続けたいと思う。



図19. クロムネハバチ
2023. 6. 13



図20. クロスズメバチ
2024. 12. 3



図21. ナキイナゴ幼虫
2024. 6. 13

表9. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2024年にかけて行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種

ランク	目	科	種	学名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
絶滅危惧Ⅰ類																					
	バッタ目	マツムシ科	カヤコオロギ	<i>Euscirtus japonicus</i>	○																
絶滅危惧Ⅱ類																					
	バッタ目	バッタ科	ナキイナゴ	<i>Mongoloteitix japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			セグロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>				○													
	カメムシ目	ヨコバイ科	テングオオヨコバイ	<i>Tengirhinus tengu</i>	○		○			○											
	コウチュウ目	コガネムシ科	ムネアカセンテコガネ	<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i>						○											
準絶滅危惧																					
	トンボ目	アオイトトンボ科	オツネトンボ	<i>Sympecma paedisca</i>				○	○						○			○	○	○	
		ムカシトンボ科	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>			○														
		ヤンマ科	オオリボシヤンマ	<i>Aeschna nigroflava</i>									○							○	○
		トンボ科	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>			○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>			○								○	○				○	
	バッタ目	ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	カメムシ目	セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		アメンボ科	ヤスマツアメンボ	<i>Gerris insularis</i>									○							○	
	コウチュウ目	クワガタムシ科	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>	○			○	○												
		テントウムダムシ科	セダカテントウムダムシ	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>		○		○		○		○	○				○	○	○	○	○
		テントウムシ科	シロジュウゴホシテントウ	<i>Calvia quindecimguttata</i>								○	○								
		カミキリムシ科	イワキセダカコブヤズカミキリ	<i>Parechthistatus gibber shibatai</i>					○			○			○						○
	チョウ目	タテハチョウ科	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda charonda</i>					○												
			スミナガン	<i>Dichorragia nesimachus nesiotetes</i>					○			○									
			ミスジチョウ	<i>Neptis philyra excellens</i>						○				○							○
		セセリチョウ科	アオバセセリ	<i>Choaspes benjaminii japonica</i>								○	○		○						○
			ホソバセセリ	<i>Isoetion lamprospilus lamprospilus</i>					○	○	○	○					○				
		ヤママユガ科	エソヨツメ	<i>Aglaia tau microtau</i>					○												
		シャチホコガ科	ブナアオシャチホコ	<i>Syntypistis punctatella</i>									○		○					○	○
情報不足																					
	バッタ目	ツユムシ科	ヘリグロツユムシ	<i>Psyrana japonica</i>														○			
	アミメカゲロウ目	クシヒゲカゲロウ科	クシヒゲカゲロウ	<i>Dilar japonicus</i>											○						
	コウチュウ目	コメツキムシ科	トラフコメツキ	<i>Selatossomus onerosus</i>					○												○
			ルリツヤハダコメツキ	<i>Hemicrepidius subcyaneus</i>					○												
	ハチ目	ミツバチ科	クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>	○	○		○	○					○		○	○				

表10. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2024年にかけて行われた調査で確認された注目種

目	科	種	学名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
バッタ目	カマドウマ科	チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>				○	○	○	○						○	○	○		
	キリギリス科	ヒメクササキ	<i>Ruspolia dubia</i>	○	○	○	○		○	○										
	ツユムシ科	エゾツユムシ	<i>Kuwayamaea sapporensis</i>				○		○		○									
		ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>				○	○				○	○	○	○	○	○		○	○
ナナフシ目	トビナナフシ科	ニホントビナナフシ	<i>Micadina phluctainoides</i>		○		○	○	○	○	○		○		○					
ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	エゾハサミムシ	<i>Eparchus yezoensis</i>				○	○	○			○								
		コブハサミムシ	<i>Anechura harmandi</i>				○		○		○	○			○				○	○
カメムシ目	アワフキムシ科	テングアワフキ	<i>Philagra albinotata</i>	○					○	○		○								○
	マルウンカ科	カタビロクサビウンカ	<i>Issus harimensis</i>																	
	サシガメ科	オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	○	○		○	○			○		○		○			○	○	○
	カスミカメムシ科	モンキクロカスミカメ	<i>Deraeocoris ater</i>												○		○			
	カメムシ科	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>	○	○	○			○	○	○	○	○							○
		エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>			○	○		○			○	○							
		トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>	○	○		○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○
		ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○				○
		ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>		○		○			○										
		トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>	○	○		○		○	○	○	○	○							
コウチュウ目	クワガタムシ科	アカアシクワガタ	<i>Nipponodorcus rubrofemoratus</i>					○											○	○
		ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculiformoratus</i>	○	○		○										○			○
	テントウムシ科	シロホシテントウ	<i>Vibidia duodecimguttata</i>		○	○	○	○				○								
	ゾウムシ科	ハスジゾウムシ	<i>Cleonus japonicus japonicus</i>	○																
ハエ目	ハナアブ科	ニトベッコウハナアブ	<i>Volucella linearis</i>							○										
チョウ目	タテハチョウ科	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>				○	○	○	○		○		○	○	○		○	○	
		アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハチ目	ヤママユガ科	ヒメヤママユ	<i>Caligula jonasii jonasii</i>				○								○	○				
	スズメバチ科	シダクロスズメバチ	<i>Vespula shidai</i>	○	○			○	○	○		○				○	○			
		キオビホオナガスズメバチ	<i>Dolichovespula media</i>					○				○								
		クロスズメバチ	<i>Vespula flaviceps</i>																	○
	ミツバチ科	オオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita hypocrita</i>			○			○											

謝辞

佐々木仁氏には 2024 年 5 月の同行時にコウチュウ目の確認ポイントおよび方法に関して、ご指示いただいた。また澤田義弘氏には、これまで岩崎が記録・報告してきた和泉葛城山のアリガタハネカクシ（岩崎、2014 など）に関して、コアリガタハネカクシ *Megalopaederus lewisi* ではなく、オオアリガタハネカクシ *Paederus* (*Megalopaederus*) *poweri* であるのご教示いただいた。このアリガタムシは、ほぼ調査シーズンを通してミヤコザサの葉上や木道の柵でよく見られる種である。その他、和泉葛城山の生物相に関してご教示いただいた鞍井希風、天満和久、中村進、湯浅幸子、吉田元三郎の各氏に謝意を表する。

引用文献・参考文献

岩崎 拓 (2010) 和泉葛城山の昆虫 (2008 年度調査). 貝塚の自然 第 12 号 : 41-45.

岩崎 拓 (2011) 和泉葛城山の昆虫 (2009 年度調査). 貝塚の自然 第 13 号 : 88-94.

岩崎 拓 (2012) 和泉葛城山の昆虫 (2010 年度調査). 貝塚の自然 第 14 号 : 53-58.

岩崎 拓 (2013) 和泉葛城山の昆虫 (2011 年度調査). 貝塚の自然 第 15 号 : 41-50.

岩崎 拓 (2014) 和泉葛城山の昆虫 (2012 年度調査). 貝塚の自然 第 16 号 : 29-38.

(注) 付図の 2012 年 11 月 8 日の調査速報に、コアリガタハネカクシとして、画像を掲載している (p. 38)

岩崎 拓 (2017) 和泉葛城山の昆虫調査 (2013-2014 年度調査). 貝塚の自然 第 18 号 : 55-69.

岩崎 拓 (2020) 和泉葛城山の昆虫 (2015-2016 年度調査). 貝塚の自然 第 20 号 : 23-36.

岩崎 拓 (2022a) 和泉葛城山昆虫調査 2021. 自然遊学館だより No. 101 : 13-14.

(注) ヘリグロツユムシが大阪府レッドリストにおいて情報不足になっていることを知らずに、単に注目種として扱ってしまった

岩崎 拓 (2022b) 和泉葛城山の昆虫 (2017-2018 年度調査). 貝塚の自然 第 22 号 : 52-65.

岩崎 拓 (2023) 和泉葛城山昆虫調査 2022. 自然遊学館だより No. 106 : 3-5.

岩崎 拓 (2024) 和泉葛城山の昆虫 (2019-2020 年度調査). 貝塚の自然 第 23 号 : 39-52.

岩崎 拓 (2025) 和泉葛城山の昆虫 (2021-2022 年調査). 貝塚の自然 第 24 号 : 52-69.

上久保文貴・湯浅幸子・岩崎 拓 (2012) 和泉葛城山の植物 (2010 年調査). 貝塚の自然 第 14 号 : 47-52.

大阪府 (2014) 『大阪府レッドリスト 2014』, 48pp.

金沢 至・松本吏樹郎 (2006) 『改定版 スズメバチとアシナガバチ (ミニガイド No. 6)』, 大阪自然史センター, 44pp.

佐々木 仁 (2024) 『和泉葛城山山頂周辺のカミキリムシ (令和 6 年版)』, 46pp.

初宿成彦 (2005) 『大阪のテントウムシ (ミニガイド No. 16)』 (改定版), 大阪自然史センター, 39pp.

竹内正人 (2009) 『写真集 ハナアブ 300』, 双翅目談話会, 300pp. (+日本のハナアブ科暫定リスト 8pp. +和名索引 4pp.)

村井貴史・伊藤ふくお（2011）『バッタ・コオログ・キリギリス生態図鑑』，日本直翅類学会監修，北海道大学出版会，449pp.

安永智秀・高井幹夫・山下 泉・川村 満・川澤哲夫（2000）『日本原色カメムシ図鑑』，友国雅章監修，全国農村教育協会，380pp.

吉田浩史・岩崎 拓（2012）大阪府貝塚市のハバチ亜目．貝塚の自然 第 14 号：37-46.

付表

2008 年の予備調査開始以来、澤田義弘氏に訂正していただいたコウチュウ目のオオアリガタハネカクシ（誤：コアリガタハネカクシ）とニセクロホシテントウゴミムシダマシ（誤：クロホシテントウゴミムシダマシ）、およびシワクシケアリ（誤：オオハリアリ）が誤同定の記述回数が多かったベスト3である。

以下では、主に付図として掲載した調査速報等において不明種として表記し、公表後に種が判明し、かつ『貝塚の自然第 20 号』における正誤表に掲載していないものを付表 1 に示した。貝塚市立自然遊学館の年次研究報告書『貝塚の自然』の号数は、引用文献・参考文献の自らの報文と照合していただきたい。いずれも同館のホームページの「調査研究報告書」に、正誤表とともに、訂正していない状態（発行物と同じもの）で掲載されている。

付表1. 和泉葛城山における昆虫調査報告（『貝塚の自然』、貝塚市立自然遊学館発行）における追加種

正誤表（『貝塚の自然』第20号、2020）の中で訂正していない分
オオアリガタハネカクシ（←コアリガタハネカクシ×）、ニセクロホシテントウゴミムシダマシ（←クロホシテントウゴミムシダマシ×）、およびシワクシケアリ（←オオハリアリ×）の誤同定を除く

調査年	調査日	目	科	和名	学名	ステージ	貝塚の自然	追加／速報訂正	備考
2009年	9月9日	ナナフシ目	トビナナフシ科	ヤスマツトビナナフシ	<i>Micadina yasumatsui</i>	成虫	13号	追加	リスト不掲載 ニホントビナナフシ画像の中にヤスマツトビナナフシが混じっていた
2010年	6月17日	チョウ目	シャクガ科	ソトシロオビナミシャク	<i>Chloroclystis excisa</i>	成虫	14号	追加	リスト不掲載 14号までは速報なし
2011年	7月8日	チョウ目	ヒトリガ科	アカスジシロコケガ	<i>Oyana hamata hamata</i>	幼虫	15号	追加	リスト&速報不掲載
2012年	6月14日	チョウ目	シャクガ科	ナカウスエダシャク	<i>Alois angulifera</i>	成虫	16号	追加	本文&速報不掲載
2013年	5月8日	コウチュウ目	コメツキムシ科	ハネナガクシコメツキ	<i>Melanotus matsumurai</i>	成虫	17号	追加	本文&速報不掲載、澤田義弘氏による標本同定
2013年	6月6日	チョウ目	シャクガ科	シトロゲエダシャク	<i>Phigalia verecundaria</i>	幼虫	18号	追加	本文&速報不掲載
2013年	7月2日	ハチ目	コシブトハナバチ科	ヤマトツヤハナバチ	<i>Ceratina Japonica</i>	成虫	18号	追加	本文&速報不掲載、森康貴氏による標本同定
2013年	9月10日	ハエ目	ムシヒキアブ科	ヒメキンイシアブ	<i>Choerades japonicus</i>	成虫	18号	追加	本文&速報不掲載
2014年	10月9日	チョウ目	シャチホコガ科	スジエグリシャチホコ	<i>Ptilodon hoegei</i>	幼虫	18号	速報訂正	速報で、ウリハダカエデの葉を集団摂食する不明種幼虫として文章のみ掲載
2015年	5月14日	ハエ目	ミズアブ科	ヒラヤマミズアブ	<i>Odontomyia hirayamae</i>	成虫	20号	追加	本文&速報不掲載、澤田義弘氏による標本同定
2015年	5月14日	チョウ目	ハバキガ科	セキオビヒメハバキ属	<i>Pammene</i> sp.	成虫	20号	追加	本文&速報不掲載
2015年	5月14日	チョウ目	ドクガ科	シロオビドクガ	<i>Numenes albofascia albofascia</i>	幼虫	20号	速報訂正	速報で種名をあげずに、「ガ類幼虫2種を確認」と書いたが、3種に訂正
2015年	7月8日	チョウ目	シャクガ科	ソトシロオビナミシャク	<i>Chloroclystis excisa</i>	成虫	20号	追加	本文&速報不掲載
2015年	9月2日	チョウ目	ドクガ科	シロオビドクガ	<i>Numenes albofascia albofascia</i>	幼虫	20号	追加	本文&速報不掲載、同調査日に成虫も確認
2016年	7月14日	チョウ目	シャチホコガ科	セダガシャチホコ	<i>Rabtaia cristata</i>	幼虫	20号	追加	同調査日だけでも、未発表のガ類画像はかなりの数になる
2016年	7月14日	チョウ目	ヒトリガ科	スジモンヒトリ	<i>Spilarctia seriata punctata</i>	幼虫	20号	追加	”
2016年	8月4日	チョウ目	ケンモンガ科	キバラケンモン	<i>Trichosea champa</i>	幼虫	20号	速報訂正	速報で、サクラ類の葉やアカシデの葉を集団摂食する不明種幼虫として画像紹介
2017年	6月1日	カメムシ目	ヒラタカメムシ科	クロナガヒラタカメムシ	<i>Neuroctenus ater</i>	成虫	22号	追加	本文&速報不掲載
2017年	7月6日	チョウ目	シャクガ科	キマダラオオナミシャク	<i>Gandaritis fixseni</i>	成虫	22号	追加	本文&速報不掲載
2017年	8月3日	チョウ目	ヤガ科	ゴマケンモン	<i>Moma alpinum</i>	幼虫	22号	追加	本文でも、速報でも、紹介していない
2017年	10月5日	カメムシ目	カメムシ科	ヨツボシカメムシ	<i>Homalagonia obtusa</i>	幼虫	22号	追加	画像ファイル名に「不明」を入れず「カメムシ科」としていたため
2018年	7月12日	ハエ目	ヤドリバエ科	クロヒゲナガハナバエ	<i>Hermymia beelzebul</i>	成虫	22号	速報訂正	速報で、科名種名とも不明として、画像のみ紹介
2019年	6月6日	ハエ目	シギアブ科	Rhagio 属	<i>Rhagio</i> sp.	成虫	23号	追加	本文でも、速報でも、紹介していない
2019年	9月5日	カメムシ目	カメムシ科	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>	幼虫	23号	追加	速報で、「種名が分からない幼虫が幾種類かいた」と記述（成虫では記録している）
2020年	4月16日	チョウ目	シャクガ科	オオクロオビナミシャク	<i>Praethera praelecta</i>	成虫	23号	追加	速報で、「種名が分からない成虫」として、文章のみで紹介
2020年	8月7日	ハエ目	ヤドリバエ科	クロヒゲナガハナバエ	<i>Hermymia beelzebul</i>	成虫	23号	追加	2018年7月12日に初めて確認した種

付図

各月の調査後すぐに、気候や他の動植物の状況も含めて、調査速報を作成した。2023 年と 2024 年の分を付図として以下に掲載した。

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2023年4月）

2023年4月18日 天候：晴れ／くもり 調査者1名
南風が強く、撮影には厳しい条件でした。登山道Aコースは開通していましたが、今度は岸和田市側の木道が改修工事中でした。（*3年前から流行した新型コロナウィルスは第8波が終息し、やや安心な状況となっています）



チョウ目 チョウ類2種

ヒオドシチョウは、山頂神社前ではなく、展望台への階段にいました。チョウ類は**ルリタテハ**と**テングチョウ**を入れて3種でした。ガ類の成虫は、右の写真の**フトフタオビエダシャク**と、もう1種の不明種だけで、幼虫は**ドクガ**の集団と**キノコヒモミノガ**を確認しました。



フトフタオビエダシャク

カメムシ目

ハルゼミの羽化殻を採集したのは初めてです。全体的に小さいことと、触角の第4節が長いのが特徴です。その他、**ミヤマアワフキ**、**トビイロツノゼミ**、**チャパネアオカメムシ**、および駐車場の水たまりで**ヒメアメンボ**と**ヤスマツアメンボ**を確認しました。



ハルゼミ羽化殻

その他の昆虫

コウチュウ目ではガ類の幼虫を摂食中の**ウスチャジョウカイ**（前胸背が赤いタイプ）や**ヒメデオキノコムシ**、ハエ目では**ヒロウドツリアブ**、ハチ目では**ウツギハバチ**、**クロヤマアリ**、**クロオオアリ**、**アメイロアリ**、**シワクシケアリ**、**コマルハナバチ**などを確認しました。



ウスチャジョウカイ

植物

草本では、**ニリンソウ**、**エイザンスミレ**、**タチツボスミレ**、**ヤマネコノメソウ**、**フキ**、**ムラサキケマン**など、木本では、**コバノミツバツツジ**、**イロハカエデ**、**ナガバモミジ**イチゴなどが花を咲かせていました。舗装道路沿いには、相変わらず、平地の外來種がびこっています。



ニリンソウ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2023年5月）

2023年5月16日 天候：晴れ 調査者1名

林内では、草本の花が少なくなり、わずかにフタリシズカが見られた程度です（右の写真）。木本ではツリバナの花が目立ちました。林縁では**アキグミ**が満開で、**ウツギ**、**コバノガマズミ**、**コマユミ**が咲き始めていました。



チョウ目 チョウ類5種

ジャコウアゲハが4個体見られた以外は、**スジグロシロチョウ**、**コジャノメ**、**コムスジ**、**キタテハ**がそれぞれ1個体の確認でした。このうち、**コムスジ**だけが葉に止まったので撮影できました。ガの幼虫は**ミノウスバ**（右の写真）と**キノコヒモミノガ**だけを確認しました。



ミノウスバ幼虫

コウチュウ目

ヒメデオキノコムシや**フタホシオオノミハムシ**も迷いましたが、写真には**シロトラカミキリ**を選びました。と言っても珍しい種ではありません。その他、**オオオサムシ**、**シモフリコメツキ**、**ナミテントウ**、**アオハムシダマシ**、**ズグロキハムシ**、**リンゴコフキソウムシ**などを確認しました。



シロトラカミキリ

ハエ目

気温が高いせいか、ハエ目は活動的で、**コムライシアブ**や**オオイシアブ**の写真は撮れませんでした。**ネウスオドリバエ**や**キイロナミホシヒラタアブ**もたくさんいたのにダメでした。写真は木柵の鳥の糞に来ていた**ハマダラヒロクチバエ**です。名残惜しそうに後ずさりして去って行きました。



ハマダラヒロクチバエ

その他

トンボ目は**シオヤトンボ**、バッタ目は**フキバッタ**の仲間（幼虫）、ナナフシ目は**エダナナフシ**の幼虫、シリアゲムシ目は**ヤマトシリアゲ**と、それぞれ1種ずつの確認となりました。**ハルゼミ**は30個体ほどの鳴き声を聞きましたが、姿を見ることは出来ませんでした。



シオヤトンボ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2023年6月）

2023年6月13日 天候：くもり／晴れ 調査者1名

林縁ではウツギの花が満開でした。ブナ林内は緑が濃くなり、エゴノキの花は所々で散っていました。登山道の脇では**カキノハグサ**が咲いていました。でも、今日の植物の主役は**ギンリョウソウ**の大きな株でした（右の写真）。



チョウ目 チョウ類8種

テングチョウの群飛や**ミドリヒョウモン**を見ると、山頂にきたなという感じがしますが、**モンシロチョウ**も**モンキチョウ**も飛んでいます。ガ類では、**ニセオレクギエダシャク**が自然遊学館に標本がない種でした。先月の画像もエダシャク類だったので、今回は**オスグロトモエ**を選びました。



オスグロトモエ（春型）

バッタ目など

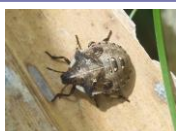
ナキイナゴは1個体が鳴き、他はまだ幼虫でした。**ヤブキリ**、**ヒメギス**、**ツマグロバッタ**、**ヤマトフキバッタ**は、いずれも幼虫でした。**ヤセヒシバッタ**は成虫でした。バッタ目以外では、**エダナナフシ**の幼虫と**コバハサミムシ**を1個体ずつ確認しました。



コバハサミムシ

カメムシ目

ハルゼミは8個体の鳴き声を聞きました。写真には、山地性の**クチブトカメムシ**の幼虫を選びました。あまり見かけない種です。その他、**シマサシガメ**、**クサギカメムシ**、**ヤスマツナガカメムシ**、**オオツマキヘリカメムシ**、**ハリカメムシ**などの普通種を確認しました。



クチブトカメムシ幼虫

その他

コウチュウ目では**ヒメアシナガコガネ**、**セダカテントウダマシ**、**ニセシラホシカミキリ**、**キボシルリハムシ**、**ズグロキハムシ**、ハエ目では**ミスジガガンボ**、**コムライシアブ**、**ナミハナアブ**、ハチ目では**クロムネハバチ**などの写真を撮ることが出来ました。



セダカテントウダマシ

付図1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2023年4月）

付図2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2023年5月）

付図3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2023年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2023年7月）

2023年7月14日 天候：晴れ 調査者1名

南風が強い日でした。2008年の調査開始以来初めて見る種が意外と多く、それらが平地の普通種だったりするので、和歌山県側から吹き上げられて来た可能性があります。右の写真は神社の石段にいて、遊んでくれたシマヘビです。



チョウ目 チョウ類9種

チョウ類は、**トラフシジミ**のほかは常連の種でした。個体数は強風のせいかな少ない目でした。ガ類では、**ネグロフトメイガ**と**ヒロバツバメアオシャク**が自然遊学館に標本がない種ですが、珍しい種ではありません。山頂のトイレの壁に**ブナアオシャチホコ**が止まっていた。



トラフシジミ

バッタ目

ヒトコブササキリモドキ（1♂）を確認できました。昨年は全く確認できなかったツムシ類では、4年ぶりに**アシグロツムシ**の幼虫を確認し、**ホソクビツムシ**の鳴き声は15個体ほどを聞きました。それは良しとして、**アカハネオンプバッタ**（1♂）を確認したのは興ざめでした。



ヒトコブササキリモドキ

カメムシ目

エゾゼミは5個体ほどが鳴き始めるものの、すべて途中で鳴き止んでしまいます。強風のせいかもしれません。**ニイニゼミ**も2個体が鳴いているだけでした。その他、**トゲカメムシ**、**オオヘリカメムシ**の幼虫、**ハリカメムシ**などを確認しました。



トゲカメムシ

コウチュウ目

ツシマナクボカミキリは、自然遊学館には1995年の標本が1個体あるだけです。**カタモンミナミボタル**と**カシウツツハムシ**は、自然遊学館には標本がありませんが、珍しい種ではありません。その他、**スジコガネ**、**ホソトラカミキリ**、**セダカテントウダマシ**などを確認しました。



ツシマナクボカミキリ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2023年8月）

2023年8月5日 天候：晴れ 調査者1名

8月定番の**ミヤマアカネ**は、1♀を撮影できましたが、トップの写真には屋根から壁と木の上のいたアライグマを選びました（標高約800m）。昨年の秋に山頂で初めて成虫を見た**ヒメカマキリ**は、幼虫を確認できました。



チョウ目 チョウ類8種

ゴイシシジミは、幼虫がアブラムシ食（肉食）として知られています。今年は当たり年かもしれません。その他、チョウ類は**キアゲハ**、**オナガアゲハ**、**スジグロシロチョウ**、**クロヒカゲ**、**ミドリヒョウモン**など、ガ類は**マダガ**、**キンモンガ**、**キドクガ**などを確認しました。



ゴイシシジミ

バッタ目

ツマグロバッタは成虫になっていました。先月に続いて、**ヒトコブササキリモドキ**を確認できました。**チビクチキウマ**を久しぶりに見ましたが、すぐに跳ねられてしまいました。**ヒメツムシ**の幼虫は、頭部が成虫と同じ模様なので分かります。**ホソクビツムシ**は鳴き声での確認です。



ツマグロバッタ

カメムシ目

エゾゼミ、**クマゼミ**、**ニイニゼミ**、**ミンミンゼミ**、**ツクツクボウシ**の鳴き声を聞きました。でも、写真を撮ったのは、鳴き声を聞かなかった**ヒグラシ**だけです。山地性のカメムシで確認できたのは**トゲカメムシ**だけで、あとは**コガシラアワフキ**や**ハリカメムシ**などを確認しただけです。



ヒグラシ

コウチュウ目

佐々木仁さんに会い、**アカアシクワガタ**のいる木を教えてもらいました。樹洞に1個体の大顎が見えましたが、地面に落ちていた死体しか撮影できませんでした。**スジクワガタ**は、オスがメスをガードするペアを撮影しました。**マダラメカクシゾウムシ**は自然遊学館に標本がない種でした。



アカアシクワガタ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2023年9月）

2023年9月7日 天候：晴れ 調査者1名

かなり涼しくなりました。イタドリ、コアカソ、ノサガゲ（右の写真）、カラムシ、ヨメナ、ヨシノアザミなどの花が咲き始めていました。2008年の調査開始以来初めて**エンマコオロギ**の鳴き声を聞きました。



チョウ目 チョウ類9種（成虫8種・幼虫1種）

チョウ類では**アサギマダラ**と**サカハチチョウ**の吸蜜・飛翔が目立ちました。**オナガアゲハ**、**キタキチョウ**、**クロヒカゲ**、**ダイミョウセセリ**、**キマダラセセリ**は、1個体のみ確認です。右の写真は**ジャコウアゲハ**の幼虫です。ガ類では、お馴染みの**キンモンガ**の姿が目立ちました。



ジャコウアゲハ幼虫

カメムシ目

ゼミの鳴き声は**ツクツクボウシ**がほとんどで、**エゾゼミ**と**ミンミンゼミ**が各1個体だけになり、山頂の夏は終わったのかなと感じました。その他、**ツマグロオオヨコバイ**、**トゲカメムシ**、**オオヘリカメムシ**、**キバラヘリカメムシ**、**ハリカメムシ**だけではもの足りない結果です。



キバラヘリカメムシ

ハエ目

咲き始めたヒヨドリバナに、**オオヒゲナガハナアブ**、**シロスジベッコウハナアブ**、**オオハナアブ**、**シマハナアブ**などが集まっていた。特に前2種はサイズのライバルのようで、時々飛びながらの頭突きを繰り返していました。あとは、**ヨコジマオオハリバエ**が目立った程度です。



オオヒゲナガハナアブ

ハチ目

2個体の**キイロスズメバチ**が絡まりながら目の前に落ちて来て、おそらくメス同士の喧嘩だと思います。写真は、巣作りしている**オオフタオビドロバチ**です。常連のアリ類のほか、**オオモンクロベッコウ**、**キンケハラナガツチバチ**、**コマルハナバチ**などを確認しました。



オオフタオビドロバチ

付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2023年7月）

付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2023年8月）

付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2023年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2023年10月）

2023年10月16日 天候：晴れ／くもり 調査者1名
ミカエリソウ、アケボノソウ、ツルニンジンなどの花の時期が終わりかけて、ヨシノアザミ、ヒヨドリバナ、ヨメナの花が目立ちます。オオスズメバチが目の高さで樹液を吸っていたりするので注意が必要です。



チョウ目 チョウ類6種

チョウ類の確認は、アカタテハ、キタテハ、テングチョウ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミの6種だけで、個体数も少なく、寂しい結果でした。ガ類では、ホシボウジャクの訪花が目立ちました。ホバリングの写真を撮ると、腹部の側面に白い点（星）が並びます。



アカタテハ

カメムシ目

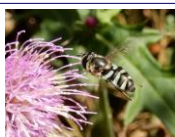
エサキモンキツノカメムシは、幼虫1個体と成虫5個体を見ました。1回の調査では最多記録でしょう。ツノカメムシ類では、セアカツノカメムシとヒメハサミツノカメムシも確認しました。その他、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、シラホシカメムシなどを確認しました。



エサキモンキツノカメムシ

ハエ目

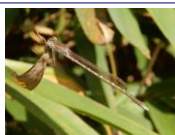
確認種のほとんどが訪花中のハナアブ類でした。コマバムツホシヒラタアブ、オオハナアブ、シマハナアブ、シロオビベッコウハナアブ、クロヒラタアブ属に混じって、ヘリヒラタアブの青色の線が目立ちます。その他、ヒラヤマシマバエやオオクロバエなどを確認しました。



ヘリヒラタアブ

トンボ目

2個体確認した両方が大阪府レッドリスト種だったので、写真を2枚掲載します。アキアカネのメスは、オスほどではないですが、成熟すると赤色を帯びます。



オツネントンボ



アキアカネ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2023年11月）

2023年11月4日 天候：晴れ 調査者1名
気温が20℃を超え、秋とは思えない陽気です。でもこしはらく夜間の気温が低かったせいか、ブナ林内は意外に紅葉していました。右の写真は、北アメリカ原産のマツヘリカメムシです。ここまで登って来たかという感じです。



チョウ目 チョウ類6種

調査開始から15年ほど経ちましたが、アサギマダラを11月に確認したのは初めてです。多くのバードウォッチャーも見えていたので、SNS上でも掲載されているかもしれません。その他、キタキチョウ、キタテハ、テングチョウ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミを確認しました。



アサギマダラ

カメムシ目

オトビサシガメは今年1個体目の確認となりました。ツノカメムシ類は、モンキツノカメムシ、セアカツノカメムシ、ヒメツノカメムシの3種を確認しました。その他は、クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ホソヘリカメムシなど、平地でもいる種だけでした。



ヒメツノカメムシ

ハエ目

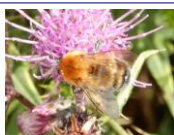
確認個体の大半はオオクロバエで、残り半分はクロヒラタアブ、ヘリヒラタアブ、オオハナアブ、ホソヒラタアブなどのハナアブ類でした。その他、ヒラヤマシマバエとキアシフンバエなどが数個体で、先月とほとんど変わらないメンバーでした。小さいガガンボの種名は分かりません。



クロヒラタアブ

その他

ハチ目は右の写真のトラマルハナバチ以外は、クロヤマアリとアメイロアリだけでした。バッタ目はクサビバリの鳴き声を聞き、マダラスズとヤマトフキバッタを目視しました。コウチュウ目はクロナガオサムシの死体を確認しました。



トラマルハナバチ

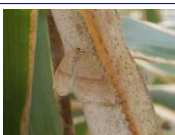
「和泉葛城山」昆虫調査速報（2023年12月）

2023年12月14日 天候：晴れ 調査者1名
紅葉の時期は完全に過ぎ、ブナをはじめとする落葉樹も葉を落とし、林内が明るくなっていました。オオマシコという鳥の撮影のため、大砲を構えた人たち約20人が下の駐車場に集まっていました。



チョウ目 チョウ類1種

チョウ類はキタテハのみでした。クロスジフユエダシャクが3個体、ブナ林内をヒラヒラと飛んでいて、枯葉に止まった1個体を撮影できました。ガ類の幼虫はキノコヒモミノガとコウマダラエダシャクを確認しました。周回路の木道の工事のため、調査コースを短縮しました。



クロスジフユエダシャク

その他の昆虫

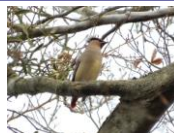
マダラスズが1個体鳴いていました。昨年のもそうでした。ヒシバッタ属の幼虫がトイレの壁に止まっていた。木道の柵には、Bibio属のケバエが3個体いましたが、種名までは分かりません。その他、クロヒラタアブ属の一種を確認しました。



ヒシバッタ属幼虫

鳥類

鳥類はエナガやシロハラ、ホオジロなど11種を確認しました。そのうち、ヒレンジャクとオオマシコの画像を載せておきます。



ヒレンジャク



オオマシコ

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2023年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2023年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2023年12月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2024年4月）

2024年4月19日 天候：晴れ 調査者1名

ウグイス、ホオジロ、ソウシチョウなどの鳴き声を聞きました。木本植物では、ウリハダカエテ（右の画像）、ミヤマシキミ、ウスゲクロモジなどが咲いていて、コバノミツバツツジやニフトコなどは盛りを過ぎていました。



チョウ目 チョウ類1種

チョウ類は**テングチョウ**が1個体という寂しい結果でした。ガ類では、**クロモンドクガ**の幼虫と**ウスキヒゲナガ**を確認しましたが、いずれも山頂付近に分布が限られる種ではありません。



ウスキヒゲナガ

カメムシ目

朽ちて倒れた杭の下に**クロヒラタカメムシ**がいました。**ツマジロカメムシ**は、柱に結ばれたビニールテープの上にはいました。それ以外は木道の板上で、**ヤニサシガメ**の幼虫、**クサギカメムシ**の幼虫、**エサキモンキツノカメムシ**、**セアカツノカメムシ**などを確認しました。



クロヒラタカメムシ

コウチュウ目

ウスチャジヨウカイ、**カクムネベニボタル**、**シモフリコメツキ**は、この時期によく見られます。画像は、ネザサの葉上にいた**イタヤハマキチョッキリ**です。**キハネホソコメツキ**や**チビタマムシ**属などを確認したほか、科が分からないものを2個体採集しました。



イタヤハマキチョッキリ

その他

昆虫では**キロナミホシヒラタアブ**、**ムネアカオオアリ**、**コマルハナバチ**など、他の節足動物では**クロヤチグモ**と**アカケダニ**を確認しました。フナ林内の草本植物では、**チゴユリ**、**シハイスミレ**、**エイザンスミレ**、**ニリンソウ**などが花を咲かせていて、**ユキザサ**はまだ蕾でした。



チゴユリ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2024年5月）

2024年5月10日 天候：晴れ 調査者1名

和泉葛城山の**カミキリムシ**を研究されている佐々木さんに会い、調査の前半は同行し、**フタオビヒメハナカミキリ**（右の画像）や**ヒナリリハナカミキリ**など、自分の知らない**カミキリムシ**を教えてくださいました。



チョウ目 チョウ類3種

チョウ類は**コミスジ**と**テングチョウ**が1個体ずつ、**アオバセセリ**が3個体という“妙な”結果でした。ガ類では、**カバカリガ**の幼虫や、先が2又に分かれた2対の突起が背面から出ている**クロモンキリバエダシヤク**の幼虫、**ウスバミスジエダシヤク**などを確認しました。



アオバセセリ

カメムシ目

ハルゼミが7個体鳴いていました。**ブチヒシウンカ**や**ミヤマアワフキ**は常連の種と言ってよいでしょう。ツノカメムシ類は**セアカツノカメムシ**、**エサキモンキツノカメムシ**、**モンキツノカメムシ**、**ヒメツノカメムシ**の4種を確認しました。個体数が多いのは**クサギカメムシ**の幼虫でした。



ヒメツノカメムシ

コウチュウ目

レッドリスト種と注目種では**セダカテントウダマシ**、**トラフコメツキ**、**カメノコテントウ**を確認しました。**アカコメツキ**と**ベニコメツキ**は両種とも撮影できました。その他、**シロオビナカボソタマムシ**、**アカハネムシ**、**エゴシギソウムシ**、**イチゴハムシ**などを確認しました。



ベニコメツキ

その他

ハエ目では**ベッコウガガンボ**や**オオイシアブ**など、ハチ目では**キロスズメバチ**、**トラマルハナバチ**、**コマルハナバチ**など、その他の目では、**ガガンボカゲロウ**、**オビシタカワゲラ**属の一種、**ホソクビツユムシ**の幼虫、**エダナナフシ**の幼虫、**ホソマダラシリアゲ**などを確認しました。



オオイシアブ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2024年6月）

2024年6月13日 天候：晴れ 調査者1名

ウツギが満開でした。その他の木本は**コバノガマズミ**、**シラキ**、**エビガライチゴ**などが少々、草本は**ギンリョウソウ**（右の写真）、**カキノハグサ**、**ホタルブクロ**、**オカタツナミソウ**、**キツリフネ**、**スイカズラ**などが咲いていました。



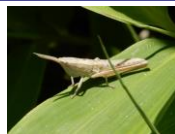
チョウ目 チョウ類13種

テングチョウの目立った群飛は見られませんでした。**オナガアゲハ**、**ミスジチョウ**、**アサギマダラ**、**ムラサキシジミ**は1個体ずつでした。**アカタテハ**が赤色を完全に隠して止まっている姿は、一瞬「？」となります。画像にあげたガは前翅前縁の黒色部を確認する必要があります。 **マエグロシラオビアカガネトウ**



バッタ目など

バッタ目では**ナキイナゴ**が数個体が鳴いていました（ほとんどは幼虫）。**ツマグロバッタ**、**フキバッタ**の仲間、**ヒメギス**も幼虫でした。ナナフシ目では**エダナナフシ**の幼虫、**ハサミムシ**目では**コフハサミムシ**（こちらは成虫）を1個体ずつ確認しました。



ナキイナゴの幼虫

カメムシ目

ハルゼミが8個体鳴いていました。**テングアワフキ**は8年ぶりながら、木柵で2個体を確認しました。1調査日で**チャバネアオカメムシ**を8個体見たのは初めてです。ヒラタカメムシ科も見る頻度が高くなっています。その他の注目種としては**オトビサシガメ**を1個体確認しました。



テングアワフキ

コウチュウ目

大阪府レッドリスト種としては**セダカテントウダマシ**と**イワワキセダカコブヤハズカミキリ**を1個体ずつ確認しました。その他、**ヤマトオサムシ**、**エグリデオキノコムシ**、**ホソヒゲナガキマワリ**、**アトモンサピカミキリ**、**ヒトオビアラゲカミキリ**などを確認しました。



セダカテントウダマシ

付図 10（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2024 年 4 月）

付図 11（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2024 年 5 月）

付図 12（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2024 年 6 月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2024年7月）

2024年7月8日 天候：晴れ 調査者1名

7月の調査でセミの鳴き声を聞かなかったのは記憶にありません。バッタ目では、ヤブキリ、ホソクビツムシ、ナキナゴなどが鳴いていました。右の写真はヒトコブササキリモドキで、3♂2♀を確認して一安心です。



チョウ目 チョウ類5種

チョウ類ではイシガケチョウを5年ぶりに見ました。テングチョウは3個体だけでした。ガ類の成虫ではヒメキボソバを撮影することができました。幼虫ではブナアオシャチホコ、アカヒゲドクガ、リンゴドクガ、オビガなどを確認しましたが、同定できないものも数種ありました。



ブナアオシャチホコの幼虫

カメムシ目

チャバネアオカメムシは先月の8個体を大幅に上回る19個体を確認しました（うちブナ林内で17個体）。カタビロクサビウンカ、ノコギリカメムシ、オオヘリカメムシの幼虫、エサキモンキツノカメムシ、クサギカメムシ、ハリカメムシは1個体だけの確認でした。



カタビロクサビウンカ

コウチュウ目

草上を主に見ているので、地上徘徊性の確認種は少ないと思います。今回はセンチコガネとヨツボシモンシデムシだけでした。その他、クロマダボタル、ナナホシテントウ（多い）、ニセリンゴカミキリ、ミヤマクワガタなどを確認し、クチキオオハナノミを採集しました。



ヨツボシモンシデムシ

ハエ目

右の画像はアシナガムシヒキがヒメバチの一種を捕食しているところですが、ムシヒキアブ科ではヒメキンイシアブを撮影することができました。ウシアブ、ヒラヤマシマバエ、キアシフンバエ、ヨコジマオオハリバエは、山頂付近でよく見かける種です。



アシナガムシヒキ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2024年8月）

2024年8月8日 天候：晴れ 調査者1名

8月恒例のミヤマアカネは10年ぶりに未確認となりました。シオカラトンボを20個体以上確認したのは2008年の調査開始以来、記憶にありません。ヒメカマキリは今年で3年連続の確認となりました（右の写真は幼虫）。



チョウ目 チョウ類8種

チョウ類は、オナガアゲハ、クロヒカゲ、ダイミョウセセリ、キマダラセセリを含む8種を確認しました。ガ類は、ゴマフボクトウ、ウスベニトガリメイガ、キンモンガ、アオスジアオリンガ、マエキリンガ（以上、成虫）、およびアカイラガ、キムジノメイガなどの幼虫を確認しました。



ゴマフボクトウ

バッタ目

ツマグロバッタ、ヤマトフキバッタ、マダラスズ、ヒシバッタ属は複数個体を確認しました。クチキウマ属のオス（♂の同定は難しい）、コロギス幼虫（若齢）、ヒトコブササキリモドキ♂、ヒメツコムシ幼虫、ホソクビツムシ♂はそれぞれ1個体の確認でした。



ヒトコブササキリモドキ

カメムシ目

先月は鳴き声を聞かなかったセミ類ですが、今月はエソゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニゼミ、ツクツクボウシの5種の鳴き声を聞きました。右の写真は6年ぶりに確認したツノアオカメムシです。チャバネアオカメムシは5個体と、先月よりは大幅に減りました。



ツノアオカメムシ

コウチュウ目

昨年、佐々木仁さんに教えてもらったポイントの一つ（ブナの幹）でウスバカミキリを撮影中に、アカアシクワガタも幹に張り付いているのを確認しました。教えの通りでした。その他、コクワガタ、アオカナブン、オオサビコメツキ、ゴマダラカミキリなどを確認しました。



アカアシクワガタ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2024年9月）

2024年9月9日 天候：晴れ 調査者1名

とにかく暑く、ブナ林内にも涼しさの要素が一片もありません。Aコースではリョウブの木が倒れて登山道を塞いでいました（右の写真）。月初の台風10号の影響かもしれません。ソウシチョウの鳴き声は先月より減りました。



チョウ目 チョウ類13種

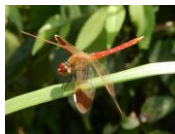
チョウ類はキアゲハ、クロヒカゲ、サカハチチョウ、ミドリヒョウモン、ダイミョウセセリを含む13種を確認しました。ナミアゲハやヤマトシジミをはじめ、下界にいる種も多く複雑な気持ちです。ガ類はキンモンガ、オオハガタナミジャク、ヨツボシホソバなどを確認しました。



サカハチチョウ

トンボ目

先月確認できなかったミヤマアカネは2♂3♀いて安心しましたが、9月に5個体を見た記憶はありません。シオカラトンボは2♀と先月よりは減りました。ウスバキトンボはコース全体で200個体以上群飛していました。オオハリボシヤンマはいつもの場所で2個体を確認しました。



ミヤマアカネ

バッタ目

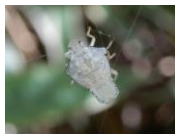
特別に書くこともなく、やや残念な結果です。ヒメツコムシの死体が2個体、トイレ前のクモの巣に掛かっています。成虫になって鳴き始めたのはクサヒバリ、モリオカメコオロギ、カナタタキ、ヒロハネヒナバッタです。その他、ツマグロバッタやヤマトフキバッタを確認しました。



ヤマトフキバッタ

カメムシ目

昨年8月に「ダミ声のミンミンゼミ」として保留していたものが、今回も1個体鳴いていました。エソゼミ2個体はふつうに連続音で鳴いていました。その他、チャバネアオカメムシ、トゲカメムシ、オオヘリカメムシなどを確認しました。



不明種の脱皮殻

付図 13（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2024 年 7 月）

付図 14（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2024 年 8 月）

付図 15（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2024 年 9 月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2024年10月）

2024年10月15日 天候：くもり後晴れ 調査者1名
風がない分やや蒸し暑く、鳥や虫の鳴き声も少なく、夏なのか秋なのか分からない妙な感じです。最初に、ジョロウグモの巣にチャバネアオカメムシとナナホシテントウが掛かっているのを見て、期待できない予感がしました。



チョウ目 チョウ類5種
一番個体数が多かったのは、カタバミにきているヤマトシジミで、次がアサギマダラの5個体でした。チョウ類はスジグロシロチョウ、ウラナミシジミ、チャバネセセリを加えて5種だけでした。ガ類ではホシホウジャクが多く、その他、リンゴドクガの幼虫などを確認しました。



アサギマダラ

バッタ目
クサヒバリは鳴き声が樹上からよく聞こえます。エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、マダラスズを山頂の広場で確認しました。ヒロバネヒナバッタが2個体だけだったのは意外でした。ブナ林側では、ハヤシウマの幼虫やヤマダラバッタの死体などを確認しました。



ヒロバネヒナバッタ

カメムシ目
セミの鳴き声は聞きませんでした。ブナ林内では、主に木道の柵で、エサキモンクツノカメムシ、ツノアオカメムシ（死体）、アカスジキンカメムシの幼虫などを確認しました。稜線付近では、ハリカメムシやヤニサシガメの幼虫、クサギカメムシの幼虫を確認しました。



アカスジキンカメムシ幼虫

その他
トンボ目はオオアイトトンボ1♂、カマキリ目はオオカマキリ1♂だけでした。ウリハダカエデの葉裏にウスベニチャタテの幼虫が4個体いたので持ち帰り、翌日に羽化しました。ハエ目ではキアシフンバエ、コウチュウ目ではオオアリガタハネカクシを撮影することができました。



ウスベニチャタテ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2024年11月）

2024年11月5日 天候：くもり 調査者1名
右の写真はブナの幹に生えたツキヨタケです。この背景は黄葉だけになっていますが、ブナ林全体では緑色が大半でした。登山道Aコースは通行禁止になっていて、通常より短い調査ルートになりました。



チョウ目 チョウ類0種
チョウ類とガ類とも成虫はまったく確認できず、種名が分かったのは、木道の柵上にいたキドクガとカクモンヒトリの幼虫だけでした。他に、種名の分からないミノガ科幼虫2種、およびヤガ科幼虫1種を確認しました。



キドクガ幼虫

バッタ目
樹上からクサヒバリ、地面からオカメコオロギ属の弱々しい鳴き声を聞きました。コバネイナゴは2009年以降の確認です。ツチイナゴは2017年の初確認以降、見る機会が増えています。画像には、地面を跳ね回っていたハヤシウマのメスを選びました。



ハヤシウマ

コウチュウ目
ブナの幹に生えたキノコ上でミヤマオビオオキノコとキイロセマルケシキスイを1個体ずつ確認しました。ミヤコザサや木道の柵上で見たオオアリガタハネカクシは30個体以上でした。稜線の舗装道脇でナミテントウ1個体を確認しました。



ミヤマオビオオキノコ

その他
カメムシ目がヤニサシガメの幼虫とハリカメムシの2種だけだったのは期待外れでした。ハエ目ではヒラヤマシマバエやヨモギシロケフシタマバエの虫えいのほか種名の分からないガガンボ科など、ハチ目ではホソアシナガバチの巣（中身なし）とシワクシケアリなどを確認しました。



ホソアシナガバチ巣

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2024年12月）

2024年12月3日 天候：晴れ 調査者1名
写真の場所は黄葉が残っていましたが、他の場所では落葉樹の葉はほとんど落ちていました。正午の気温が20℃近くになる場所もあり、12月の山頂も温暖化の影響が避けられないのかもしれませんが。変な感じの晩秋です。



チョウ目 チョウ類3種
チョウ類はカタテハ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミを確認しました。ガ類では晩秋にお馴染みのナカオビアキナミシャクが数個体、林内を飛翔し、幼虫ではゴマフリドクガとカクモンヒトリを確認しました。その他、ウリハダカエデの幹にイラガの繭が付いていました。



ナカオビアキナミシャク

カメムシ目
ツマジロカメムシが活発に石積みの壁を歩いていました。右の写真のマツヘリカメムシは壁から落下したものです。山頂では昨年から確認している外来種です。木道の手すりの上に種名不明の若齢幼虫が5個体ほどいて、おそらくトゲカメムシだと思われるのですが、決め手に欠けます。



マツヘリカメムシ

ハチ目
2008年の調査開始以降、シダクロスズメバチは確認してきましたが、クロスズメバチは初めてです（自然遊学館には1993年7月6日の標本が1個体あります）。その他、シワクシケアリを木道の手すり、クロヤマアリを舗装道路上で確認しました。



クロスズメバチ

その他
2008年以降、当で調査をして、誤同定回数のトップ3は、オオアリガタハネカクシ正（コアリガタハネカクシ誤）、シワクシケアリ正（オオハリアリ誤）、ニセクロホシテントウゴミムシダマシ正（クロホシテントウゴミムシダマシ誤）です。面目次第もございません。



オオアリガタハネカクシ

付図 16（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2024 年 10 月）

付図 17（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2024 年 11 月）

付図 18（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2024 年 12 月）